

# 中小企業魅力向上戦略

－鹿角の中小企業が輝くための戦略－

かづの産業未来創造会

令和8年（2026年）3月

## 目 次

- 第 1 章 はじめに－かづの産業未来創造会について
- 第 2 章 日本の中小企業を取り巻く現状と課題
- 第 3 章 鹿角市の中小企業の現状と課題
- 第 4 章 基本方針と戦略目標
- 第 5 章 戦略の柱と具体的な施策
- 第 6 章 推進体制とスケジュール
- 第 7 章 今後の展望

## 第1章 はじめに－かづの産業未来創造会について

若者が地域に誇りを持ち、鹿角に残りたいと思うような地域づくりを目指し、地域の稼ぐ力を高める産業の振興と人口構造の若返りに向けた取組みの展開が急務となっている。こうした背景のもと、鹿角市内の製造業を中心とした中小企業の経営者が集い、令和6年度に「かづの産業未来創造会」を設立した。

### 1-1 本会の目的

- 今後の地域産業の成長と地域の活性化を図るため、現状把握と課題の明確化を行い、課題に対する対策を実施していく
- 会員間での情報共有や先進事例の視察等を行い、地域産業の発展に向けた戦略を検討することを目的とする
- 「中小企業魅力向上戦略」の策定 ⇒ モデル事業の組成 ⇒ 市内企業への横展開

### 1-2 構成メンバー

【参加企業】 (株)柳澤鉄工所、(株)青山精工、(株)浅利佐助商店、(有)森谷製作所、小伸製作所、昭和第一産業(株)、ジョイタム(株)

【支援・連携】 鹿角工業振興会、鹿角市産業活力課

### 1-3 これまでの主な取組み

時期	取組み内容
令和6年4月	第1回かづの産業未来創造会 開催（設立・目的共有）
令和6年9月	中小機構勉強会の開催（支援メニューの学習）
令和6年9月	第3回創造会：メンバー各社の経営課題の洗い出し・共有
令和7年3月	令和6年度事業の振り返りと令和7年度事業方針の決定
令和7年5月	第1回（R7年度）創造会：年度計画の確定
令和7年9月	秋田公立美術大学連携事業「もしも鹿角市に勤めたら」プロジェクト実施
令和7年12月	先進地視察（岐阜・愛知：坂口捺染、長谷虎紡績、からくり改善展）
令和7年12月	IoT 導入基礎研修会の実施
令和8年2月	令和7年度事業の振り返りと令和8年度に向けた検討

## 第2章 日本の中小企業を取り巻く現状と課題

### 2-1 中小企業の位置づけと重要性

中小企業は日本の企業数の約99.7%、従業員数の約70%を占め、地域経済・雇用の担い手として極めて重要な存在である。しかしながら、少子高齢化による人口減少、グローバル競争の激化、デジタル化の急速な進展など、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、特に地方の中小企業においては様々な課題が山積している。

### 2-2 全国的な中小企業の課題

課題	内容	重要度
人材確保・ 人手不足	少子高齢化・労働人口の減少により、製造業を中心に深刻な人手不足が常態化している。特に若年層の「製造業離れ」が顕著で、3K（きつい・汚い・危険）のイメージが払拭できていない。	最重要
賃金・ 処遇格差	大企業との賃金格差が依然として大きく、優秀な人材の確保・定着が困難。物価上昇局面での賃上げ対応も急務となっている。	重要
DX（デジタル 変革）の遅れ	デジタル化・自動化の波が押し寄せるなか、経営資源（人・モノ・カネ・情報）が乏しい中小企業ではDX推進が遅れがち。業務の非効率が生産性低下を招いている。	重要
事業承継・ 後継者不足	経営者の高齢化が進むなか、後継者不在による廃業リスクが増大。地域の雇用・技術の喪失につながりかねない。	重要
販路開拓・ 高収益化	BtoB 中心の下請け構造から脱却できず、付加価値向上や価格転嫁が難しい。新市場・新顧客開拓のノウハウ・リソース不足も課題。	重要
情報発信力の 不足	自社の技術力・魅力を効果的に発信する手段・人材が不足。特に就職活動においては、認知度の低さが採用を困難にしている。	重要
設備老朽化と GX 対応	生産設備の老朽化が進む一方、カーボンニュートラル（GX）への対応も求められており、投資負担が重くのしかかっている。	中程度

## 第3章 鹿角市の中小企業の現状と課題

### 3-1 鹿角市の産業構造

鹿角市は秋田県の北東部に位置し、豊かな自然環境を背景とした観光業・農業とともに、製造業が地域経済を支えている。製造業においては非鉄金属加工、精密機器、建設関連など高い技術力を持つ企業が存在しているが、多くが BtoB（企業間取引）中心であり、地域内での認知度が低く、地元の中高生やその親世代に「どんなすごい仕事をしているか」が十分に伝わっていないという課題がある。

### 3-2 かつの産業未来創造会メンバーが抱える課題

令和6年9月の第3回創造会および令和7年度の意向調査を通じて明らかになった主要課題は以下のとおり。

No.	課題	詳細内容	優先度
課題①	雇用確保・人材育成	若年層の採用が極めて困難。鹿角市外への流出が続いており、外国人材の活用も管理費用・言語等の面でハードルが高い。中核人材の育成・技能伝承も急務。	最重要
課題②	経営全般の改革（収益力強化）	人件費・資材コストの高騰が経営を圧迫。価格転嫁の難しさ、付加価値の向上・新販路開拓が喫緊の課題。企画開発・マーケティングのノウハウ不足も深刻。	重要
課題③	企業情報の効果的な発信	自社の魅力・技術力を学生・保護者・就活生に向けて効果的に発信できていない。地域内での認知度の低さが採用活動の障壁となっている。	重要
課題④	デジタル化の推進（DX）	生産管理・業務管理のアナログ依存が続き、業務効率が低い。IoT・クラウドツールの導入に関心はあるが、取組みが遅れている企業が多い。	重要
課題⑤	インナーブランディング・社員満足度向上	社員のエンゲージメント（仕事への関与度・やりがい）が低い場合、定着率の低下につながる。社員向けの自社魅力発信や各種支援制度の充実が必要。	重要
課題⑥	建物・設備の老朽化・GX対応	生産設備・工場施設の老朽化が進んでおり、メンテナンス・更新投資が必要。同時にカーボンニュートラルへの対応も求められている。	中程度

### 3-3 先進事例視察から得た知見

令和7年12月に実施した岐阜・愛知先進地視察（長谷虎紡績㈱、㈱坂口捺染、からくり&デジタル展）から、以下の共通知見を得た。

- 若手社員との継続的なコミュニケーション（月1ランチミーティング、日常的な対話）が定着率向上に直結
- 「プリント工場＝暗い・汚い」→「カッコいいファクトリー」へのイメージ変革（坂口捺染の事例）
- 地元高校生・保護者を巻き込んだ開かれた工場づくり（コラボ商品開発、工場見学）
- 失敗を恐れない社風と「逆ピラミッド型」組織（上司が責任を持つ文化）
- 動画による標準化・技術伝承：若手社員が動画編集を行いながら年配社員とコミュニケーション
- 環境整備（3S（整理・整頓・清掃））と社長方針の継続的な社内周知（毎月3テーマ発信）

## 第4章 基本方針と戦略目標

### ◆ 基本コンセプト ◆

「鹿角の中小企業が輝く－選ばれ、愛され、成長する企業へ－」

～ 地域に誇りを持った若者が集い、働き、未来をつくる産業の礎を築く ～

#### 4-1 基本方針

本戦略は、鹿角市内の中小企業が抱える複合的な課題に対し、「魅力向上」を軸として包括的に取り組むための行動指針である。単に給与水準を上げるだけでなく、企業としての「中身（働きやすさ・成長機会）」と「見せ方（発信力・認知度）」の両面を改革し、若者・地域・社会から選ばれる企業群を育てることを基本方針とする。

	方針名	内容
方針1	稼ぐ力の強化	付加価値向上・新販路開拓により、持続可能な収益基盤を確立する
方針2	人材の確保と育成	若年層・多様な人材が働きたいと思う職場環境を整備し、定着率を向上させる
方針3	デジタル変革の推進	IoT・DXを活用した業務効率化と生産性向上を段階的に実現する
方針4	魅力の発見と発信	自社の強み・魅力を言語化し、多様なチャネルで効果的に発信する
方針5	連携による相乗効果	企業間・産学官の連携を深め、個社では難しい課題をネットワークで解決する

#### 4-2 戦略目標 (KGI)

指標	目標名	達成イメージ
KGI①	新規採用の充実	メンバー企業各社における高卒・大卒新規採用の実現・増加
KGI②	若年層定着率の向上	従業員の定着率向上 (入社3年以内離職率の低減)
KGI③	企業認知度の向上	地域内における企業認知度・好感度の向上 (高校生・保護者へのアンケート等)
KGI④	業務効率化の実現	DX推進による残業時間削減・有給取得率の向上
KGI⑤	収益力の改善	付加価値向上・新規取引先開拓による売上・利益の改善

## 第5章 戦略の柱と具体的な施策

本戦略は「稼ぐ力の強化」「人づくり」「デジタル化」「発信力強化」「連携の深化」の5本柱で構成される。各柱は相互に関連し合い、相乗効果をもたらすことで、中小企業の魅力向上を総合的に推進する。

### 【戦略の柱1】 稼ぐ力の強化－高収益化と新市場開拓

対応課題：課題② 経営全般の改革（販路拡大・高収益化）

#### 施策 1-1 価格転嫁力・交渉力の強化

- 原材料・人件費上昇分を適正に価格転嫁できる交渉力・原価計算力を養う研修の実施。中小機構の専門家派遣も積極活用。

#### 施策 1-2 付加価値の向上・ニッチトップ戦略

- 「他社にはできない高精度加工」「短納期・小ロット対応」など自社の強みを磨き上げ、ニッチな市場でのトップ地位を確立する。

#### 施策 1-3 新市場・新顧客の開拓

- 再生可能エネルギー（風力・太陽光）、航空宇宙、医療機器など成長分野への参入可能性を調査。産業技術センター等との連携も活用する。

#### 施策 1-4 BtoC ビジネス・直販モデルの検討

- 地元素材・技術を活かした自社製品開発、ふるさと納税返礼品、観光との連携など、BtoC（個人向け販売）への挑戦を検討する。

#### 施策 1-5 財務・会計力の強化

- 経営者・中核社員を対象にした財務・会計・経営管理に関する研修を実施し、収益性分析・コスト改善の取組みを強化する。

### 【戦略の柱2】 人材の確保と育成－選ばれる職場づくり

対応課題：課題① 雇用確保・人材育成、課題 ⑤ インナーブランディング・社員満足度向上

#### 施策 2-1 採用チャネルの多様化

- ハローワークだけでなく、高校・大学への訪問、UIJ ターン支援機関との連携、SNS を活用した採用広報など、多様なチャネルで人材を獲得する。

#### 施策 2-2 キャリアパスの明確化と見える化

- 「10年後の自分の姿」が描けるよう、スキルマップの作成・公開、資格取得支援制度の設計・充実を行う。

#### 施策 2-3 若手・女性・外国人材の活躍推進

- 多様な人材が活躍できる職場環境を整備。男性育休の積極推進、女性が快適に働けるトイレ・休憩室の整備、外国人材受入れのサポート体制構築。

#### 施策 2-4 エンゲージメント向上の取組み

- 若手社員による改善提案チームの設置、月 1 回のランチミーティング（経営者と若手社員）、社員の意見を経営に反映させる仕組みの構築。

#### 施策 2-5 技能伝承・OJT 体制の整備

- 動画マニュアルの作成（若手が撮影・編集を担当することで世代間交流も促進）、メンター制度の導入、OJT 体制の標準化。

### 【戦略の柱 3】 デジタル変革（DX）の推進－生産性の飛躍的向上

#### 対応課題：課題④ デジタル化の推進（DX 化）

#### 施策 3-1 IoT・センサーによる生産工程の見える化

- 秋田県産業技術センターと連携し、自社製センサーや市販 IoT デバイスを活用した生産工程のデータ取得・可視化を推進する。IoT 基礎研修会への継続参加を奨励する。

#### 施策 3-2 クラウドツールによる業務効率化

- 勤怠管理・在庫管理・社内コミュニケーション（LINE WORKS 等）の効率化を図る。安価な SaaS（クラウドサービス）の積極的な活用を促す。

#### 施策 3-3 デジタル人材の内製化

- 社内にデジタル推進担当者（DX 推進リーダー）を育成する。産業技術センター主催のハッカソン型研修への参加などを検討する。

#### 施策 3-4 工場環境の「令和型」へのリニューアル

- デジタル表示の作業指示書、QR コードを使った品質管理など、誰でも分かりやすい工場環境づくりを推進。3S（整理・整頓・清掃）の徹底と、デザイン性の高い作業着・休憩室の整備。

#### 施策 3-5 生成 AI を活用した業務効率化

- 生成 AI 技術を活用した作業標準書の制作など、AI を効果的に活用した業務改善を推進。また、AI コミュニティの形成や、セミナーの開催により、生成 AI 技術の最新情報や市内事業者での取組事例の共有を行う場を提供する。

### 【戦略の柱 4】 魅力の発見と発信－ブランディングと認知度向上

#### 対応課題：課題③ 企業情報の効果的な発信 課題⑤ インナーブランディング

#### 施策 4-1 「もしも鹿角市に勤めたら」プロジェクトの継続・発展

- 秋田公立美術大学との連携事業など、産学官の連携による事業を継続し、学生目線による企業の魅力発掘・言語化・PR 素材制作を推進。武蔵野大学等との連携も検討する。

#### 施策 4-2 オープンファクトリーの定期開催

- 高校生・保護者・市民を工場に招き、製品や技術だけでなく「働く人の姿」「職場の雰囲気」を直接見せる機会を年 1 回以上設ける。

#### 施策 4-3 SNS・動画を活用したデジタル発信

- Instagram・TikTok・YouTubeなどを活用し、採用ターゲット（若者）に刺さる「社員の1日」「ものづくりの現場」などの動画・写真を継続的に発信する。

#### 施策 4-4 採用ツール（求人票・採用ピッチ資料）の刷新

- 自社の「本当のウリ」を徹底的に言語化し、スペックではなく「働く体験・成長・やりがい」を伝える採用資料を制作する。

#### 施策 4-5 地域・社会との共創による信頼ブランドの構築

- 鹿角市の地域イベントへの参画、地元高校・中学との連携、再エネ活用（GX）など社会的意義のある取組みを通じ、地域に愛される企業のブランドを確立する。

### 【戦略の柱5】 連携の深化－ネットワークで課題を突破する

対応課題：全課題に横断的に対応

#### 施策 5-1 かつの産業未来創造会の継続・機能強化

- 本会の定例会を継続開催し、企業間での情報共有・課題解決の場として機能させる。成功事例・失敗事例の共有も積極的に行う。

#### 施策 5-2 産学官連携の推進

- 秋田公立美術大学・武蔵野大学等との連携を継続・拡大。産業技術センター・中小機構・商工会等の支援機関とのネットワークを強化する。

#### 施策 5-3 先進地との交流・情報収集

- 国内外の先進的な取組みを継続的に視察・研究し、自社への応用可能性を検討する。視察後の「振り返り会」で学びを確実に共有する。

#### 施策 5-4 鹿角市・工業振興会との政策連携

- 本戦略を鹿角市の第7次総合計画後期計画（令和8年度～）に反映させるよう働きかける。工業振興会全体への戦略の普及・展開も図る。

#### 施策 5-5 成果の見える化と横展開

- モデル企業での取組み成果を「鹿角版・中小企業魅力向上ガイドブック」としてまとめ、市内の他の中小企業へ普及させる。

## 第6章 推進体制とスケジュール

### 6-1 推進体制

- 【統括】 かつの産業未来創造会（メンバー企業・鹿角工業振興会）
- 【行政支援】 鹿角市産業活力課（事業のコーディネート・行政的支援）
- 【専門支援】 中小企業基盤整備機構（中小機構）、秋田県産業技術センター
- 【学術連携】 秋田公立美術大学、武蔵野大学（予定）等
- 【各種連携】 かつの商工会、ハローワーク、金融機関等

### 6-2 実施スケジュール（ロードマップ）

年度	テーマ	主な取り組み内容
令和7年度 (2025年度)	中小企業魅力向上戦略策定・ 戦略策定に向けた情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー企業間での情報共有</li> <li>・先進事例視察及び研修会の実施</li> <li>・戦略検討、戦略策定</li> </ul>
令和8年度 (2026年度)	戦略の普及・浸透 モデル事業の実施・成果創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業振興会での戦略発表・共有</li> <li>・研修計画策定と実施（財務、DX等）</li> <li>・モデル事業の検討、実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>→他地域への販路拡大、展示会出展</li> <li>→DX実装・検証</li> <li>→「もしも鹿角市に勤めたらプロジェクト」第2弾実施</li> <li>→採用手法、ツールの検討及び刷新</li> <li>→オープンファクトリー開催など、企業の魅力を知ってもらう機会の創出等</li> </ul> </li> </ul>
令和9年度 (2027年度)	展開・定着・発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各モデル事業の振り返りと検証</li> <li>・モデル事業継続実施の検討</li> <li>・ガイドブック作成・市内企業への横展開</li> <li>・戦略の見直し、以降の方向性検討</li> </ul>

## 第7章 今後の展望

本戦略は、鹿角市の中小企業が直面する複合的な課題を「魅力向上」という観点から体系的に整理し、具体的な行動指針を示したものである。戦略の成否は、各企業が主体的に行動するとともに、かづの産業未来創造会のメンバーが互いに学び、支え合い、連携して取り組むことにかかっている。関係機関は戦略に基づく取組みの効果を最大化するため、企業の取組みを支援する必要がある。

### 7-1 「鹿角モデル」の確立に向けて

- 本戦略で描く姿を実現した企業群が、地方における中小企業再生のロールモデル「鹿角モデル」として全国に発信される存在となることを目指す。
- 若者が「鹿角の企業で働きたい」と思う地域ブランドの確立が、人口流出の歯止めとなり、地域全体の活性化につながる。
- 地域の稼ぐ力が高まることで、地域全体の経済循環が促進され、次世代への地域の継承が可能となる。

### 7-2 鹿角市総合計画後期計画との連携

- 本戦略を令和8年度からスタートする第7次鹿角市総合計画後期計画の「産業・雇用」分野の施策として位置づけ、行政・民間が一体となった推進体制を構築する。
- 毎年度、取組みの進捗を評価・検証し、必要に応じて戦略の内容を更新・改訂していく。

### 7-3 メンバーへのメッセージ

令和6年度の設立から2年間、メンバーの皆さんは自らの企業経営の忙しい合間を縫って、勉強会、視察、意見交換を重ねてきた。この経験と知恵の結晶が本戦略である。

「大企業にはかなわない」ではなく、「鹿角でしかできないこと」を磨き上げ、地域の誇りとなる企業を目指して、ともに前進しよう。

1社で悩まず、仲間と共に考え、行動していくこと、それがかづの産業未来創造会の最大の強みである。

令和8年（2026年）3月 かづの産業未来創造会